

鯖江市スポーツ振興計画
進捗状況等
中間評価報告書

平成28年11月

鯖江市スポーツ振興計画推進委員会

鯖江市教育委員会 殿

鯖江市スポーツ振興計画について、同計画『第6章－計画の推進に向けて 3－計画の推進・進行管理 (5)－計画の進行管理・見直し』に基づく中間評価を実施し、このたび本報告書を取りまとめましたので報告します。

平成28年11月 日

鯖江市スポーツ振興計画推進委員会

委員長	橋本	智之
副委員長	加藤	健二
委員	片山	正徳
委員	杉山	弘行
委員	増田	好弘
委員	田中	一徳
委員	永田	芳和
委員	窪田	広美
委員	児玉	真由美
委員	森田	末廣
委員	水本	一文
委員	橘	喜敬
委員	三原	清治
委員	林	政善
委員	辻本	しげ子
委員	齋藤	晋
委員	桑原	彰三
委員	淵上	幹夫
委員	松村	民恵
委員	水嶋	栄子

目 次

1	はじめに	1
2	評価対象	1
3	評価実施手順	1
4	評価結果	2
5	総括	4
6	おわりに	5

【個別評価結果等】

具体的施策	進捗状況評価結果一覧表	6
具体的施策	進捗状況確認・評価シート集 基本目標 1	8
具体的施策	進捗状況確認・評価シート集 基本目標 2	52
具体的施策	進捗状況確認・評価シート集 基本目標 3	86
地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み	進捗状況確認・評価シート集	112
成果指標	達成状況確認・方向付けシート集	122

【資料編】

鯖江市スポーツ振興計画推進委員会の開催経緯	129
鯖江市スポーツ振興計画推進委員会委員名簿	130
鯖江市スポーツ振興計画推進委員会設置要綱	131

1 はじめに

平成24年3月に改訂した鯖江市スポーツ振興計画（以下「振興計画」といいます。）に基づき、市をはじめとする関係事業主体によって、スポーツ振興に関するさまざまな施策が展開されています。

平成24年度から平成33年度までの10年間の計画期間のうち中間年を迎え、この度、振興計画『第6章－計画の推進に向けて 3－計画の推進・進行管理（5）－計画の進行管理・見直し』に基づき、スポーツ団体、施設管理者、施設利用者、学校関係者など20名の委員で構成された鯖江市スポーツ振興計画推進委員会（以下「推進委員会」といいます。）において、振興計画の進捗状況や今後の方向性を確認するための中間評価を実施しました。

2 評価対象

推進委員会が行う中間評価の範囲は、振興計画「第4章 具体的施策」「第5章 地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み」「第6章 計画の推進に向けて－成果指標」とし、評価の対象は、第4章については個別具体的施策（以下「具体的施策」といいます。）を、第5章については個別具体的取組（以下「鯖江型取組」といいます。）を、第6章については中間年次（H28）における個別成果指標（以下「成果指標」といいます。）をそれぞれ単位としました。

3 評価実施手順

- (1) 各事業主体において、具体的施策、鯖江型取組、成果指標の進捗状況確認シートを作成し、市事務局（スポーツ課）において評価対象単位で集約しました。
- (2) 評価対象単位で個別評価を実施
 - ① 進捗状況確認シートに基づき、市事務局や各事業主体からの説明聴取を実施しました。
 - ② 質疑応答と協議を踏まえ、「進捗状況の評価（※1）」「今後の方向性の確認（※2）」を実施しました。
 - ③ 提言がある場合には、個別に内容をとりまとめました。
- (3) 最後に中間評価結果を総括し、報告書としてとりまとめました。

※1 具体的施策を単位とする進捗状況確認・評価シート（以下「評価シート」という。）に記載された「年度ごとの活動実績・活動状況」「これまでの進捗状況のまとめ」の内容を踏まえ、以下の4段階で進捗状況の達成度や効果・有効性を評価

A：具体的施策に掲げる目標を高いレベルで達成できた。

B：具体的施策に掲げる目標を概ね達成できた。

C：具体的施策に掲げる目標はやや未達成であった。

D：具体的施策に掲げる目標の達成には程遠かった。

※2 評価シートに記載された「今後の課題」「新たな具体的展開」の記載内容を踏まえ、今後の方向性を以下の5段階で確認

内容拡大：予算の増額等を伴って事業内容や制度等を拡大する。

内容改善：予算の増額等を伴わず事業内容や制度等を改善する。

現状維持：これまでと同様の形態で実施する。

内容縮小：予算の減額等を伴って事業内容や制度等を縮小する。

終了等：目的達成、制度廃止、制度休止等により終了・廃止・休止する。

4 評価結果

(1) 「第4章 具体的施策」

① 進捗状況

基本目標	A	B	C	D
1 生涯スポーツに親しむひとを育てる	0	12	6	1
2 スポーツを通じた元気と活力あふれるまちをつくる	0	9	6	1
3 スポーツ活動をより充実させるためのネットワークを広げる	0	8	3	0
合計	0	29	15	2

② 今後の方向性

基本目標	内容 拡大	内容 改善	現状 維持	内容 縮小	終了 等
1 生涯スポーツに親しむひとを育てる	4	11	4	0	0
2 スポーツを通じた元気と活力あふれるまちをつくる	0	7	8	0	1
3 スポーツ活動をより充実させるためのネットワークを広げる	0	4	7	0	0
合計	4	22	19	0	1

③ 個別の進捗状況・評価結果については、報告書の末尾に、「進捗状況評価結果一覧表」および「進捗状況確認・評価シート集」を掲載しました。

(2) 「第5章 地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み」

① 進捗状況および今後の方向性

「鯖江型」取組	進捗状況	今後の方向性
1 スポーツ施設、総合型地域スポーツクラブなど、充実したスポーツ環境の有効活用	B	内容改善

2 全国トップレベルの子どもの体力の維持・向上	B	現状維持
3 健康・長寿を目指した生涯スポーツの推進・展開	B	現状維持
4 体操・駅伝の振興で育むスポーツのまちづくり	B	現状維持

② 進捗状況・評価結果の詳細については、報告書の末尾に、「進捗状況確認・評価シート集」を掲載しました。

(3) 「第6章 計画の推進に向けてー成果指標」

① 達成状況および今後の方向付け

成果指標	目標値	達成状況	今後の方向付け
成人のスポーツ実施率 (H28)	週1回以上 55%	未達成	継続
成人のスポーツ実施率 (H28)	週3回以上 20%	未達成	継続
成人のスポーツ実施率 (H33)	週1回以上 65%		継続
成人のスポーツ実施率 (H33)	週3回以上 30%		継続
総合型地域スポーツクラブの加入者数 (H28)	2,300人	未達成	継続
スポーツ施設等の年間利用者数 (H28)	350,000人	達成	引上げ 380,000人
市スポーツ施設等の年間利用者数 (H33)	480,000人		新規

② 達成状況および今後の方向付けの詳細については、報告書の末尾に、「達成状況確認・方向付けシート集」を掲載しました。

5 総括

(1) 第4章に掲げる具体的施策（以下この項中「施策」といいます。）の進捗状況に関しては、46施策中29施策、約6割の施策をB評価としました。内容的に見ると「大会、イベント、教室などによるスポーツ機会提供」「子どもの体力・健康づくり」「高齢者スポーツの充実」「スポーツによる交流」「競技力向上のための支援体制充実」など、具体的な事業形態があるもの、指導方針や事業方針が確立されているもの、従来から支援体制が整備されているもの、といった分野では、概ね振興計画どおりに進捗しているといえます。

一方、「スポーツ情報の提供」「総合型地域スポーツクラブ間の交流・連携」「既存スポーツ施設の有効活用」「障がい者スポーツの充実」「スポーツ指導者などスポーツを支える人材育成」などの分野の15施策については、振興計画どおりまでは進んでいないということでC評価としました。これらの施策は、地道で息の長い取組が必要であり、その成果が見えにくいことありますが、いつでもだれもがスポーツに親しめる社会を実現するための土台づくりを担う施策ですから、継続的な働きかけを怠らない取組が求められます。

今後の方向性に関しては、進捗状況がC評価のものは事業内容や制度等の工夫による進捗の改善を期待して、ほぼすべてを「内容改善」としました。また、進捗状況がB評価のものは「現状維持」が多いものの、「大会、イベント、教室などによるスポーツ機会提供」「子どもの体力・健康づくり」「青少年スポーツ環境の充実」といった分野では「内容改善」以上の方向付けを行いました。特に、学校教育現場を中心とする「子どもの体力の維持・向上」「食育の充実」「子どもたちが体を動かしたくなる場の充実」の分野では、次世代を担うひとづくりへ期待する意見が多く、予算の増額を伴った施策の拡大を意味する「内容拡大」の方向付けをしました。

全体としては、施策の進捗状況にかかわらず、振興計画の推進に対する市民の期待度が高いことから、施策内容の工夫や改善、情報発信などに努めることにより、より効果のある施策を展開していくことが必要と考えます。

(2) 第5章に掲げる「地域特性を活かした「鯖江型」の取り組み」は、第4章の具体的施策の中から今後さらに伸ばしていくべき長所を「鯖江型」の特徴的な取組として位置づけ、関連性がある具体的施策を総合的、一体的に推進することでより大きな効果を発揮することを狙ったものです。

「スポーツ施設、総合型地域スポーツクラブなど、充実したスポーツ環境の有効活用」「全国トップレベルの子どもの体力の維持・向上」「健康・長寿を目指した生涯スポーツの推進・展開」「体操・駅伝の振興で育むスポーツのまちづくり」の4つの鯖江型取組ともに、データや活動等の内容において地域特性や長所を示す傾向が継続していることから、進捗状況をB評価としました。今後の方向性についても、おおむね「現状維持」としたところですが、評価結果に満足することなく、少しでも取組内容の改善を図ることが必要だと考えます。

特に、「内容改善」の方向付けを行った「スポーツ施設の環境の有効活用」のう

ち、開放学校、公民館併設体育館等の施設利用者向けの改善措置や各種見直しについては、利害関係者が多数に上るため調整が難しいことも想定されますが、だれもが気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりのための努力を期待します。

(3) 振興計画の推進に向けた総合的な成果指標

この振興計画の基本理念や基本目標の達成度を総合的に評価するために、中間年次である平成28年を目標年次として設定された3つの成果指標のうち、「成人のスポーツ実施率」「総合型地域スポーツクラブの加入者数」の2指標については、目標値を下回ることが見込まれます。

成人のスポーツ実施率については、振興計画策定時（H24）からほぼ横ばいで、社会経済の超成熟化と価値観の多様化によってスポーツに親しむ人口が固定化していることが推測されます。他方、年齢が上がるほどスポーツ実施率も高くなる傾向は変わらないことから、特に若年層・中年層向けを中心にしたきっかけづくりが大切となります。

また、総合型地域スポーツクラブの加入者数については、少子化の影響を直接的に受けていると思われます。各クラブの事業内容の充実および情報提供、クラブ間の連携強化などにより、加入者数の安定的確保に努めてもらうことを期待します。

スポーツ施設等の利用者数については、目標値を上回り順調に推移していますので、今後も知恵を絞り、既存施設の有効活用と利便性の向上への努力をお願いします。

6 おわりに

今回の中間評価は、5年が経過した振興計画の進捗状況や今後の方向性を確認するために実施したものです。推進委員会での計4回の審議の中で具体的施策や成果指標などを個別に評価し、全体評価としても総括しました。

これまでの5年間に具体的な進行管理作業が行われていなかったことから、各事業主体の皆様には、今回の「進捗状況確認・評価シート」の作成作業に大変な御苦勞をいただいたことと思います。

いわゆる「計画」とは、単に策定し実施するのみならず、市民や利用者の視点に立った評価指標を設定し、点検・評価を行い、施策の改善につなげていくことが望まれます。そうすることで、PDCAサイクル（計画－実施－評価－改善検討）の実効性をさらに高めることとなりますので、来年度以降もこの振興計画を定期的に点検・評価しながら、推進を図っていく必要があります。

あわせて、今回の評価結果を踏まえ、振興計画の基本理念である「全ての市民が豊かさを実感できる鯖江型の生涯スポーツ社会の実現」に向けて、より一層、施策の推進にあたられることを強く希望します。